６．生徒から見た教員の働き方改革について
甲府西高校

現在、山梨県では教員の時間外勤務を月30時間以内とする目標が掲げられていますが、依然として長時間勤務が課題となっています。

私たちが通う甲府西高校には国際バカロレアプログラムがあり、多くの先生方が普通科とバカロレアの両方を担当しています。バカロレアは日本の通常の教育課程と大きく異なるため、授業準備や評価に多くの時間が必要であり、先生方の負担の大きさを感じることもあります。

そこで私たちは、特に国際バカロレア認定校など、特色ある教育活動を行い業務負担の大きい学校への教員配置の充実を提案します。また、給特法の見直しを国に働きかけることや、SNS等を活用した教職の魅力発信重要だと考えています。

先生方が健康で働き続けられる環境は、私たち生徒の学びの充実につながります。また、教員という職業が私たち若者の憧れや夢となるためにも、働き方改革のさらなる推進をお願いします。





７．高校生に向けた障がい理解教育の導入について
巨摩高校

近年、日本でも障がいのある子どもと障がいを持っていない子どもが共に平等に学ぶインクルーシブ教育が進められています。このインクルーシブ教育は、障がいのない子どもにとっては、障がいに対する理解が深まることで、偏見や差別的な感情が解消されやすくなり、サポートの仕方や障がいの特性などを学ぶ機会になると考えます。今後、インクルーシブ教育はさらに普及・推進が図られていくと思いますが、そのような流れの中で、現在の高校現場では、高校生が障がい者と直接関わる機会があまり設けられていないのが実態だと思います。また、そのような実態が、障がいに対する理解が進まず、障がいに対する偏見が絶えない一因になっているのではないかと考えます。

そこで、私は、山梨県内の全ての高校で、障がいを持たれている方による講演や障がい疑似体験など含む体験型学習を取り入れていくことを提案したいと思います。生徒一人ひとりが障がいについて正しく理解し、多様性を学ぶ機会を増やしていくことで教科書だけでは学ぶことのできない気づきを得ることができ、障がいをより身近なものとして考えられるようになるのではないでしょうか。以上のことより、私は高校生に向けた障がい理解教育の導入を提言したいと思います。





８．介護職に対する理解を深め、その魅力を若者に発信するための取り組みについて

甲陵高校

介護職は人手不足が課題となっていますが、その背景には、「仕事が大変そう」という イメージが先行し、介護のやりがいや魅力を知る機会が少ないこともあると考えます。そこで、高齢者と若者が気軽に交流できるカフェや地域イベントを県内各地で開催することを提言します。

高校生や大学生が高齢者と会話をしたり、一緒に趣味やレ クリエーションを楽しんだりすることで、高齢者と関わる楽しさや、高齢者から学べることの多さを実感できる機会になると思います。このような交流を通して、介護職は「大変な仕事」というイメージだけではなく、人と深く関わり、誰かの生活を支えるやりがいのある仕事であることを知るきっかけになると考えます。若い世代が介護職を身近な職業として感じることで、将来の進路の選択肢の一つとなり、介護人材の確保にもつながることを期待します。





９．町の中にある段差について
　　ろう学校

　普段私が行く病院やお店の駐車場には、段差があり、手すりはありません。一人でのぼるのは不安なので、いつも、母にサポートしてもらっています。もちろん、スロープがありますが、遠回りになるので、歩くのが大変だと感じます。スロープがあるだけでは、「安心」とは言えないのです。
　町の中にある段差をなくすことは難しいかもしれません。しかし、私の場合は、手すりがあれば「安心」できます。「みんなが安心して生活できる町になるといい」と思います。





10. 障がいの有無にかかわらず誰もが活躍できる山梨の将来像について
わかば支援学校

私には将来、農業の仕事につきたいという夢があります。その夢を叶えるために、将来の進路先を検討する現場実習では、農業の仕事を経験しました。その中で、農業は障害の有無に関係なく、誰でも一緒に仕事ができ、誰もが活躍できるということを感じました。

このように、障害の有無に関係なく、誰でも働くことができ、活躍できる職場を山梨県に増やしてほしいと考えます。



